このたび(2016年11月10日に)、アメリカ合衆国労働統計局は、2015年における職場からの離脱(休業)を伴う職場における非致死性の傷害及び職業性疾病の発生状況を公表しました。

(訳者注:今回の発表は、労働統計局からの 2015 年の労働安全衛生統計をカバーする一連の発表の第2番目のものです。2016年10月の最初の発表は、職業性の傷害及び疾病調査—要約年報(S0II-AS)であって、2015年についての詳細な業種別及び種類別の傷害及び疾病の件数及び発生率が報告されています。第3番目の発表は、2015年における死亡職業性傷害についての調査として12月16日に発表されました。)

○要約

● 回復するために職場からの休業を伴う非致死の傷害及び疾病の全体の発生率

2015年にはフルタイム労働者 10,000 人当たり 104 件で、2014年の 107.1 件よりも減少したと、2016年 11 月 10 日に合衆国労働省労働統計局は、発表した。2015年には、民間産業、州政府及び地方自治体において、153,490 件の職場からの休業を伴う非致死の傷害及び疾病の全体の発生があった。これは、2014年に報告された件数と本質的には変化していない。休業日数の中央値-傷害及び疾病の重篤度の主要な尺度である一は、2015年には 8日で、2014年に報告されたものよりは 1 日少なかった。

● 民間産業

2015年の10,000人のフルタイム労働者当たりの発生件数は、93.9件で、2014年の97.8件よりは減少した。

● 職場からの休業を伴う非致死の傷害及び疾病の州及び地方自治体のフルタイムの労働者についての発生率

州 *(政府に雇用されている)* フルタイム労働者 10,000 人当たり 149.2 件で、及び地方自治体 *(政府に雇用されている)* フルタイム労働者 10,000 人当たりの発生率 (177.5 件) は、本質的には 2015 年には変化がなかった。

● 筋骨格系の傷害

2015年には、荷揚げにおける過度の動作の結果としての捻挫又は筋違いのような筋骨格系の傷害 (MSDs) が、すべての労働者の全部のケースのうち 31% (356,910件) を数えていた。筋骨格系傷害の全部のケースのうちでは、80%が民間産業で発生していた。これは、フルタイム労働者 10,000 人当たり 29.8件の発生率で、2014年の 31.9件よりは減少した。筋骨格系傷害を耐えた民間産業の労働者は、2015年には仕事に復帰する前の回復のために中央値で 12日を要して (2014年における 13日よりは減少)、すべての休業災害についての (中央値)8日と比較するとより多い。

傷害及び疾病を引き起こす出来事又はばく露

2015年でのすべての経営主体についての職業性の傷害及び疾病の原因となる最も主要な出来事又はばく露は、過度の動作及び身体の反作用で、376,190件を占めて、全体のケースの33%を数えた。また、過度の動作及び身体の反作用の2015年の発生率は、フルタイム労働者10,000人当たり33.9件で、2014年の35.6件よりは減少した。

● 傷害及び疾病の性質

すべての経営主体についての 2015 年における傷害又は疾病の最も主要な性質は、捻挫、筋違い又は裂傷で、421,610 日の休業日で、全体のケースの 37% を数えた。2015 年におけるフルタイム労働者 10,000 人当たりの発生率は、38.0 件で、2014 年における 38.9 件よりも下回った。捻挫、筋違い又は裂傷を被った労働者の休業日数は、中央値で 10 日を要して、すべてのタイプの傷害又は疾病についての (中央値) 8 日よりは多い。

○原資料の題名と所在

題名

News release, Bureau of labor Statistics,

U.S. DEPARTMENT OF LABOR

NONFATAL OCCUPATIONAL INJURIES AND ILLNESSES REQUIRING DAYS AWAY FROM WORK, 2015

● 原資料の所在

http://www.bls.gov/news.release/osh2.nr0.htm

● 内容

2015年における職場からの離脱(休業)を伴う職場における非致死性の傷害及び職業性疾病の発生状況 NONFATAL OCCUPATIONAL INJURIES AND ILLNESSES REQUIRING DAYS AWAY FROM WORK, 2015

英語原文	日本語仮訳
Economic News Release	経済ニュース発表
NONFATAL OCCUPATIONAL INJURIES AND ILLNESSES	職場からの休業を伴う非致死の傷害及び疾病、2015年
REQUIRING DAYS AWAY FROM WORK, 2015	
The overall incidence rate of nonfatal occupational injury and illness cases	回復するために職場からの休業を伴う非致死の傷害及び疾病の全体の発生
requiring days away from work to recuperate was 104.0 cases per 10,000	率は、2015年にはフルタイム労働者 10,000人当たり 104件で、2014年の
full-time workers in 2015, down from 107.1 cases in 2014, the U.S. Bureau of	107.1 件よりも減少したと、本日、合衆国労働省労働統計局は、発表した。
Labor Statistics reported today. In 2015, there were 1,153,490	2015年には、民間産業、州政府及び地方自治体において、153,490件の職
days-away-from-work cases in private industry, state government, and local	場からの休業を伴う非致死の傷害及び疾病の全体の発生があった。これは、
government—essentially unchanged from the number of cases reported in	2014年に報告された件数と本質的には変化していない。休業日数の中央値
2014. The median days away from work to recuperate—a key measure of	-傷害及び疾病の重篤度の主要な尺度である一は、2015年には8日で、2014
severity of injuries and illnesses—was 8 days in 2015, 1 day fewer than	年に報告されたものよりは1日少なかった。(表1を参照されたい。)
reported in 2014. (See table 1.)	
Private sector occupations	民間産業の職業
In the private sector, the incidence rate per 10,000 full-time workers was 93.9	民間産業では、2015 年の 10,000 人のフルタイム労働者当たりの発生件数

cases in 2015, down from 97.8 cases in 2014. (See table 1.)

- Occupations that had among the highest number of cases in 2015
 resulting in days away from work included heavy and tractor-trailer
 truck drivers; laborers and freight, stock, and material movers; and
 nursing assistants. (See table 3.)
- The incidence rates decreased for heavy and tractor-trailer truck drivers (298.7 cases per 10,000 full-time workers in 2015, down from 355.4) and nursing assistants (327.8 in 2015, down from 353.6).
- Private sector laborers and freight, stock, and material movers had 56,550 days-away-from-work cases in 2015, an increase from 2014 levels. However, the incidence rate of 289.4 cases was not significantly different from the rate reported in 2014 (284.5 cases). (See table 3 and chart A).

State and local government occupations

The incidence rates for nonfatal occupational injuries and illnesses with days away from work for state (149.2 cases per 10,000 full-time workers) and local government (177.5) were essentially unchanged in 2015. (See table 1.)

• In state or local government, there were five occupations with at least 10,000 cases: police and sheriff's patrol officers; firefighters;

は、93.9 件で、2014 年の 97.8 件よりは減少した。(表 1 を参照されたい。)

- 2015 年における職場からの休業を伴う結果となっている最も高い発生 件数であった職業は、重トラクター・トレーラー、トラック運転者、肉 体労働者、貨物運送、倉庫及び物品移動作業者及び看護助手であった。 (表3を参照されたい。)
- 重トラクター・トレーラー、トラック運転者についての発生率は減少し (2015年のフルタイム労働者 10,000人当たり 298.7件、355.4件から 減少)及び看護助手の発生率も減少した(2015年には 327.8件で、353.6件から減少)。
- 民間産業における肉体労働者、貨物運送、倉庫及び物品移動作業者は、2015年には56,550件の職場からの休業を伴う件数で、2014年の水準よりも増加した。しかしながら、289.4件の発生率は、2014年における発生率(284.5件)とは統計的には変わらなかった。(表3及び図Aを参照されたい。)

州及び地方自治体の職業

職場からの休業を伴う非致死の傷害及び疾病の州についての発生率(フルタイム労働者 10,000 人当たり 149.2 件)及び地方自治体についての発生率 (177.5 件)は、本質的には 2015 年には変化がなかった。(表 1 を参照されたい。)

州又は地方自治体の政府では、少なくとも10,000件の発生件数のあるのは、5つの職業、すなわち、警官及び保安官のパトロール官、消防士、

janitors and cleaners; and teacher assistants in local government and correctional officers and jailers in state government. (See table 3.)

- The incidence rate of injuries and illnesses to janitors and cleaners in local government increased to 657.4 cases per 10,000 full-time workers in 2015 from 434.0 cases in 2014. (See chart A.)
- The incidence rate of injuries and illnesses to firefighters in local government decreased to 422.2 cases per 10,000 full-time workers in 2015 from a rate of 495.2 in 2014. (See chart A.)

Musculoskeletal disorders

In 2015, musculoskeletal disorders (MSDs), such as sprains or strains resulting from overexertion in lifting, accounted for 31 percent (356,910 cases) of the total cases for all workers. Of the total MSD cases, 80 percent occurred to private industry workers. This resulted in an incidence rate of 29.8 cases per 10,000 full-time workers in 2015, down from 31.9 cases in 2014. Private industry workers who sustained an MSD required a median of 12 days (down from 13 days in 2014) to recuperate before returning to work in 2015, compared to 8 days for all days-away-from-work cases. (See chart B and table 9.)

Laborers and freight, stock, and material movers (20,990), nursing assistants (16,860), and heavy and tractor-trailer truck drivers (14,900) each incurred at least 5 percent of the total private sector MSD cases in

地方自治体の管理人、掃除作業員、教師補助者並びに州政府の矯正官及 び看守であった。(表3を参照されたい。)

- 地方自治体の管理人及び掃除作業員の傷害及び疾病発生率は、フルタイム労働者 10,000 人当たり 2014 年の 434.0 件から 2015 年の 657.4 件に増加した。(図 A を参照されたい。)
- 地方自治体の消防士の傷害及び疾病発生率は、フルタイム労働者10,000 人当たり2014年の495.2件から2015年の422,2件に減少した。(図 A を参照されたい。)

筋骨格系の傷害

2015 年には、荷揚げにおける過度の動作の結果としての捻挫又は筋違いのような筋骨格系の傷害(MSDs)が、すべての労働者の全部のケースのうち31% (356,910 件)を数えていた。筋骨格系傷害の全部のケースのうちでは、80%が民間産業で発生していた。これは、フルタイム労働者10,000人当たり29.8件の発生率で、2014年の31.9件よりは減少した。筋骨格系傷害を耐えた民間産業の労働者は、2015年には仕事に復帰する前の回復のために中央値で12日を要して(2014年における13日よりは減少)、すべての休業災害についての(中央値)8日と比較された。(図B及び表9を参照されたい。)

肉体労働者及び人夫、倉庫及び物品移動作業者(20,990)、看護助手(16,860)及び重トラクター・トレーラー、トラック運転者(14,900)は、それぞれ、2015年には民間部門における筋骨格系の傷害のうちの

2015.

- The MSD incidence rate for nursing assistants was 171.0 cases per 10,000 full-time workers in 2015, down from 191.1 in 2014.
- For heavy and tractor-trailer truck drivers, both the MSD rate (94.0) and number (14,900) of MSD cases in 2015 decreased from 2014 figures. However, the median days away from work increased to 30 days, up from 20 days in 2014. (See table 9 and chart B.)

Event or exposure leading to injury or illness

The leading major event or exposure resulting in occupational injuries or illnesses for all ownerships in 2015 was overexertion and bodily reaction with 376,190 cases accounting for 33 percent of total cases.

The 2015 incidence rate for overexertion or bodily reaction was 33.9 cases per 10,000 full-time workers, down from 35.6 in 2014. (See table 4.)

Falls, slips, and trips accounted for 27 percent (309,060 cases) of the total occupational injuries and illnesses in 2015 and decreased from 2014 levels. The incidence rate for falls, slips, and trips was 27.9 cases per 10,000 full-time workers and was a decrease from the rate reported in 2014 (29.3).

• The leading detailed types of event or exposure in 2015 included falls on the same level (197,260 cases), struck by object or equipment

少なくとも5%を被った。

- 看護助手の筋骨格系傷害の発生率は、フルタイム労働者 10,000 人当たり 171.0 件で、2014 年の 191.1 件よりも低下した。
- 重トラクター・トレーラー、トラック運転者については、2015 年における筋骨格系傷害の (フルタイム労働者 10,000 人当たりの) 発生率 (94.0) 及び発生数 (14,900件) は、2014年よりは減少した。しかしながら、休業日数の中央値は、2014年における 20日から 30日に増加した (表9及び図 B を参照されたい。)

傷害及び疾病を引き起こす出来事又はばく露

2015 年でのすべての経営主体についての職業性の傷害及び疾病の原因となる最も主要な出来事又はばく露は、過度の動作及び身体の反作用で、376,190件を占めて、全体のケースの33%を数えた。

過度の動作及び身体の反作用の 2015 年の発生率は、フルタイム労働者 10,000 人当たり 33.9 件で、2014 年の 35.6 件よりは減少した (表 4 を参照 されたい。)。

墜落、滑り及びつまずきは、2015 年におけるすべての職業性傷害及び疾病の 27% (309,060 件) を数えたが、2014 年の水準よりは減少した。

墜落、滑り及びつまずきの発生率は、フルタイム労働者 10,000 人当たり 27.9 件で、2014年に報告された発生率(29.3件)よりは減少した。

● 2015 年における主要な詳細な出来事又はばく露のタイプは、同じレベルでの墜落 (197, 260 件)、物体又は装置にたたかれる (157, 490 件)及

(157,490 cases), and overexertion in lifting or lowering (113,260 cases). (See table 4.)

• The incidence rate of workers being struck by an object or equipment increased to 14.2 cases per 10,000 full-time workers in 2015 from 13.4 cases in 2014. (See chart C.) The number of struck by object or equipment cases for laborers and freight, stock, and material movers increased to 12,240 cases in 2015 and contributed to the overall increase.

び荷の上げ下げにおける過度な動作(113,260件)を含んでいた(表 4 を参照されたい。)。

● 物体又は装置にたたかれる労働者の発生率は、2015 年にはフルタイム 労働者 10,000 人当たり、2014 年の 13.4 件から 14.2 件に増加した(図 C を参照されたい。)。肉体労働者及び貨物運送、倉庫及び物品移動作業 者についての物体又は装置にたたかれるケースの件数は、2015 年には 12,240 件に増加して、全体の増加に影響した。

Nature of injury or illness

The leading nature (type) of injury or illness in 2015 for all ownerships was sprains, strains, or tears with 421,610 days-away-from-work cases accounting for 37 percent of total cases. The 2015 rate was 38.0 cases per 10,000 full-time workers, down from a rate of 38.9 in 2014. Workers who sustained sprains, strains, or tears required a median of 10 days away from work compared to 8 days for all types of injuries or illnesses. (See table 4 and chart D.)

• The rate of injuries and illnesses resulting from cuts, lacerations, or punctures was 9.6 cases per 10,000 full-time workers in 2015, up from 8.8 cases in 2014. (See table 7.) Laborers and freight, stock, and material movers; maintenance and repair workers, general; and janitors and cleaners were among the occupations that had increases in the

傷害及び疾病の性質

すべての経営主体についての 2015 年における傷害又は疾病の最も主要な性質は、捻挫、筋違い又は裂傷であって、421,610 日の休業日で、全体のケースの 37%を数えた。2015 年におけるフルタイム労働者 10,000 人当たりの発生率は、38.0 件で、2014 年における 38.9 件よりも下回った。捻挫、筋違い又は裂傷を被った労働者の休業日数は、中央値で 10 日を要して、すべてのタイプの傷害又は疾病についての (中央値) 8 日と比較された。(表 4 及び図 D を参照されたい。)

● 切れ、裂傷又は刺傷の結果として生ずる傷害及び疾病の発生率は、2015年にはフルタイム労働者 10,000人当たり 9.6 件で、2014年における 8.8件よりは増えた(表 7 を参照されたい。)。肉体労働者、人夫、管理人、倉庫及び物品移動作業者、保守点検及び修理労働者、一般(労働者)及び管理人、清掃作業者は、2015年においては、切れ、裂傷又は刺傷の

number of cuts, lacerations, or punctures cases in 2015.

• Fractures (31 days), carpal tunnel syndrome (28 days), and amputations (22 days) required 14 or more additional median days away from work to recuperate than all types (8 days) of injuries or illnesses in 2015. (See table 4.) However, less than 1 percent of total cases resulted in carpal tunnel syndrome or amputation. Occupational injuries and illnesses with days away from work resulted in a fractured bone in 9 percent of total cases. (See chart D.)

結果として生ずる傷害及び疾病の発生件数が増加した職業に含まれる。

● 骨折 (31 日)、手根菅症候群 (28 日)及び切断 (22 日)は、2015 年においてはすべてのタイプの傷害又は疾病(8 日)よりも多い、14 日又はそれ以上の回復のための職場から離脱する休業日数の中央値を要した(表 4 を参照されたい。)。しかしながら、手根菅症候群又は切断の結果として生ずるのは、全体の件数の 1%以下であった。骨折によって生ずる職業性の傷害及び疾病の休業は、全体の件数のうちの9%であった(図 D を参照されたい。)。

Industry

Three private industry sectors had more than 100,000 days-away-from-work incidents in 2015: health care and social assistance (158,410), retail trade (123,770), and manufacturing (122,610). These 3 industries also had rates greater than the total rate of 93.9 cases per 10,000 full-time workers. (See tables 1 and 2.)

Health care and social assistance

- The incidence rate was 113.6 cases in 2015, down from 121.3 cases in 2014. (See table 1.)
- The rate of fractures was 7.4 cases in 2015, up from 6.9 cases in

産業

2015年においては、3種類の産業 (業種)が 100,000件以上の休業を伴う事象を有していた、すなわち、健康管理及び社会福祉 (158,410)、小売業 (123,770)及び製造業 (122,610)である。これらの3業種は、さらに、全産業平均のフルタイム労働者10,000人当たり93.9件の発生率よりも高い発生率であった (表1及び2を参照されたい。)。

健康管理及び社会福祉

- 2015 年における事象発生率は、113.6 件で、2014 年における 121.3 件よりも低下した(表 1 を参照されたい。)。
- 2015年における骨折の発生率は、7.4件で、2014年における6.9件よ

2014. (See table 2.)	りも増えた (表 2 を参照されたい。)。
• The median days away from work was 6 days in 2015, the same as	● 2015 年における休業日数の中央値は、6 日で、2014 年において報告さ
reported in 2014.	れたものと同じであった。
Retail trade	小売業
• The incidence rate was 105.3 cases per 10,000 full-time workers in	● 2015年におけるフルタイム労働者 10,000人当たりの発生率は、105.3
2015, which was not statistically different from the rate of 104.5 reported	件で、2014年において報告された104.5件の発生率と統計的には異な
in 2014. (See table 1.)	らなかった(表 1 を参照されたい。)。
• Cuts and lacerations accounted for 11 percent (13,490) of the total	● 切れる及び裂傷は、2015 年における小売業の全体の件数のうち 11%
cases in retail trade in 2015.	(13,490 件) を数えた。
• The rate of cuts and lacerations was 11.5 cases in 2015, up from 10.6	● 切れる及び裂傷の発生率は、2015年においては11.5件で、2014年の
cases in 2014. (See table 2.)	10.6 件よりは上回った (表 2 を参照されたい。)。
Manufacturing	製造業
• The incidence rate in manufacturing was 99.0 cases per 10,000	● 製造業における発生率は、2015年においては、フルタイム労働者 10,000
full-time workers in 2015, down from 103.1 in 2014. (See table 1.)	人当たり 99.0 件で、2014 年における 103.1 件よりも低下した(表 1 を
	参照されたい。)
• The rate of amputations in manufacturing increased to 2.1 cases in	● 製造業における <i>(四肢等の)</i> 切断の発生率は、2015 年においては 2.1
2015 from 1.7 cases in 2014. (See table 2.)	件と、2014年における1.7件よりは増加した(表2を参照されたい。)
• The median days away from work in manufacturing decreased to 9	● 製造業における職場からの離脱を伴う休業日の中央日数は、2014 年に

Demographics

days in 2015 from 10 days in 2014.

Gender

人口統計上 (の分析)

おける10日から9日に減少した。

性別

- The incidence rate for men in private sector, state government, and local government (all ownerships) was 113.5 cases per 10,000 full-time workers in 2015, down from 116.5 cases reported for 2014. (See table 5.)
- Injuries and illnesses to men accounted for 61 percent (702,400) of all cases and required a median of 10 days away from work, 3 days more than the median for women.
- The leading nature of injury or illness for both men and women was sprains, strains, or tears in 2015. The rate for men was 41.1 cases per 10,000 full-time workers and 34.1 cases for women.

Age

- Workers in the age group 45-54 for all ownerships had the highest number (280,100) of days- away-from work cases in 2015. This resulted in a rate of 112.8 cases per 10,000 full-time workers, down from 117.2 in 2014. (See table 5.)
- Workers in age group 55-64 had among the highest incidence rate in 2015 with 115.8 cases per 10,000 full-time workers. This was not significantly different from the rate of 116.3 reported in 2014.

- 民間産業、州政府及び地方自治体政府(すべての経営主体)における男性の発生率は、2015年においてはフルタイム労働者 10,000人当たり 113.5件で、2014年において報告された 116.5件よりは低下した(表 5を参照されたい。)
- 男性についての傷害及び疾病は、全体の件数のうちの 61% (702,400件)を数えて、休業日数の中央値は 10 日で、女性についての休業日数の中央値よりも 3 日多かった。
- 男女ともに、傷害又は疾病の主要な性質は、2015年においては、捻挫、 筋違い又は裂傷であった。フルタイム労働者 10,000 人当たりの男性に ついての発生率は 41.1 件で、女性についてのそれは 34.1 件であった。

年齢別

- 2015 年においては、すべての経営主体についての年齢階層 45-54 歳の労働者が、休業を伴う最も多くの件数 (280,100) であった。これは、フルタイム労働者 10,000 人当たり 112.8 件であって、2014 年における 117.2 件よりは低下した (表 5 を参照されたい。)。
- 年齢階層 55-64 歳の労働者は、2015 年においては、フルタイム労働者 10,000 当たり 115.8 件の発生率で、最も高い発生率の中にあった。
 このことは、2014 年に報告された 116.5 件の発生率と有意な違いではなかった。

Race or ethnicity

- There were 434,250 days-away-from-work cases reported among white workers in 2015, which accounted for 38 percent of all cases for all ownerships. (See table 5.)
- Hispanic or Latino workers had 142,170 occupational injuries or illnesses in 2015, accounting for 12 percent of the total cases.
- Black or African-American workers had 91,190 cases in 2015,
 accounting for 8 percent of total days-away-from-work cases.
- Race or ethnicity were unreported in 40 percent of all cases.

Notes

This release is the second in a series of releases from the BLS covering occupational safety and health statistics for 2015. The first release, in October 2016, covered the Survey of Occupational Injuries and Illnesses-Annual Summary (SOII-AS) and reported counts and rates of injuries and illnesses by detailed industry and case type for 2015. A third release is scheduled in December 2016 for the 2015 Census of Fatal Occupational Injuries.

Data in this release are a subset of the SOII-AS data and include additional detail about the case circumstances and worker characteristics for

人種又は民族別

- 2015 年においては、白人労働者で、434,250 件の休業を伴う件数があり、これはすべての経営主体でのすべての件数のうちの 38%を数えた(表 5 を参照されたい。)。
- ラテンアメリカ系の労働者は、2015年においては142,170件の職業性 傷害又は疾病を持っており、全体の件数の12%を数えた。
- 黒人又はアフリカ系の労働者は、2015年においては91,190件で、すべての休業(を伴う)件数のうちの8%を数えた。
- 人種又は民族の別は、すべての件数のうちの 40%では報告されていな かった。

覚書

この発表は、労働統計局からの 2015 年についての労働安全衛生統計をカバーする一連の発表の第 2 番目のものである。2016 年 10 月の最初の発表は、職業性の傷害及び疾病調査—要約年報 (SOII-AS)であって、2015 年についての詳細な業種別及び種類別の傷害及び疾病の件数及び発生率を報告した。第 3 番目の発表は、2015 年における死亡職業性傷害についての調査として12 月に発表される予定である。

この発表のデータは、職業性の傷害及び疾病調査-要約年報 (SOII-AS)の部分であって、回復のために職場から少なくとも 1 日以上離脱する休業を

occupational injury and illness cases that required at least 1 day away from work to recuperate. While the data come from the same survey, they are reported at different levels of precision. For example, in this release, injury and illness incidence rates for days-away-from-work cases are reported as 104 cases per 10,000 full-time workers. However, the same incidence rate in the SOII annual summary news release is reported as 1.0 cases per 100 full-time workers. Data users are cautioned to take into account the different levels of precision when analyzing the data.

Additional background and methodological information regarding the BLS occupational safety and health statistics program can be found in Chapter 9 of the BLS Handbook of Methods at www.bls.gov/opub/hom/pdf/homch9.pdf.

In 2014, the SOII began using the 2012 North American Industry Classification System (NAICS). Comparison of SOII estimates for 2014 to prior years is not advised below the sector level due to this change. For additional detailed information regarding NAICS revisions, visit www.bls.gov/bls/naics.htm.

This release does not present all the publishable estimates for days-away-from-work cases. Additional detailed data are available from BLS staff at (202) 691-6170, iifstaff@bls.gov, and the BLS website at

余儀なくされる職業性の傷害及び疾病のついての事例の状況及び労働者の特質に関する追加的な詳細を含んでいる。データは、同じ調査からもたらされるものである一方、これらは異なる正確性の水準で報告されている。例えば、この発表においては、休業を伴う傷害及び疾病の発生率は、フルタイム労働者 10,000 人当たり 104 件として報告されている。しかしながら、発表された職業性の傷害及び疾病調査一要約年報(SOII-AS)では、フルタイム労働者 100 人当たり 1.0 件と報告されている。データの利用者は、それらを分析する場合は、異なる正確性の水準を考慮に入れることを忠告される。労働統計局の労働安全衛生プログラムに関する追加的な背景及び方法論は、ウェブサイト www.bls.gov/opub/hom/pdf/homch9.pdf の労働統計局方法論ハンドブックの第9章で見ることができる。

2014年には、職業性の傷害及び疾病調査(SOII)は、2012年の北アメリカ産業分類システム(NAICS)の使用を始めた。2014年についてとそれ以前の職業性の傷害及び疾病調査(SOII)の見積もりの比較は、この変更のために業種レベル以下では勧められない。北アメリカ産業分類システム(NAICS)の改訂に関する追加的な詳細な情報については、ウェブサイト:www.bls.gov/bls/naics.htmを訪問されたい。

この発表は、休業を伴うケースのすべての公表された見積もりを提供しているものではない。 追加的な詳細なデータは、労働統計局の要員(202) 691-6170, iifstaff@bls.gov から、及び労働統計局のウェブサイト

www.bls.gov/iif/home.htm. Information in this release is available to sensory-impaired individuals upon request. Voice phone: (202) 691-5200; Federal relay service: (800) 877-8339.

Days of job transfer or restriction pilot study

In January of 2012, the BLS Survey of Occupational Injuries and Illnesses (SOII) began to collect information on case circumstances and worker characteristics for days-of-job-transfer-or-restriction (DJTR) cases. The pilot included six industries: specialty trade contractors; food manufacturing; building material and garden equipment supplies dealers; air transportation; warehousing and storage; and nursing and residential care facilities. The 2011-13 data from this study were published in July 2015 in BLS Report 1056:

 $\underline{www.bls.gov/opub/reports/iif/a-pilot-study-of-job-transfer-or-work-restriction}\\ -cases-2011-2013.pdf$

Beginning in January 2015, for the DJTR study a new set of six industries replaced the original pilot industries. The new industries for which detailed DJTR data are being collected are beverage and tobacco product manufacturing; general merchandise stores; couriers and messengers; waste management and remediation services; hospitals; and accommodation. The

www.bls.gov/iif/home.htm から入手可能である。この発表における情報は、知覚障害者に対して求めにより利用可能である。音声電話: (202) 691-5200; 連邦中継サービス: (800) 877-8339。

職務の移動又は制限の日数に関するパイロット調査

2012 年 1 月に、労働統計局の職業性傷害及び疾病調査(SOII)は、*職務の移動又は制限((DJTR))の日数*の事例についての状況及び労働者の特質に関する情報の収集を始めた。このパイロット (調査) は、6 つの業種を含んでいる、すなわち、専門的な通商請負人、食品生産、建設材料及び園芸設備供給者及び販売者、航空運輸、倉庫及び保管、看護及び居住介護施設である。2011-13 年までのこの調査からのデータは、2015 年 7 月に労働統計局報告1056 で公表された。(ウェブサイト):

www.bls.gov/opub/reports/iif/a-pilot-study-of-job-transfer-or-work-restric tion-cases-2011-2013.pdf

職務の移動又は制限 ((DJTR)の調査として 2015 年 1 月から始めて、新たな 6 つの業種のセットが初めのパイロット業種に置き換わった。職務の移動又は制限 ((DJTR)の詳細なデータが収集されつつある新たな業種は、飲み物及びたばこ製品製造業、一般商業店、宅配業者及び郵便配達、廃棄物管理並びに矯正サービス、病院及び宿泊施設である。これらの業種についての

2015 DJTR data for these industries will be released in 2017. Data for the details of days of job transfer or restriction cases can be found at http://www.bls.gov/iif/days-of-job-transfer-or-restriction.htm

2015 年職務の移動又は制限 ((DJTR)の調査データは、2017 年には発表されるであろう。これらの業種についての職務の移動又は制限 ((DJTR)の調査に関するデータは、(ウェブサイト):

http://www.bls.gov/iif/days-of-job-transfer-or-restriction.htm. で見出すことができる。

Completeness of SOII

BLS has long acknowledged that some conditions that are difficult for employers to relate to the workplace are not adequately recognized and reported during a calendar year (for example, long-term latent illnesses) and are believed to be understated in SOII illness measures. Following several studies in the mid-2000s questioning the completeness of SOII injury and illness counts, BLS began internal research in 2007 and, at the request of Congress, established an ongoing research program.

Initial research conducted between 2009 and 2012 found that the SOII failed to capture some cases but could not determine the magnitude or leading cause of an undercount. Researchers determined that the ability to match injury and illness data across different data sources was impacted by various factors, such as establishment type, the time of case filing, and the type of injury.

国家労働統計局の SOII (the Survey of Occupational Injuries and Illnesses: 傷害及び疾病の調査) の評価の完全性

労働統計局 (BLS) は、職場に関連する使用者にとってはその年の間に、十分に認識して報告されることがしばしば困難であるある種の条件 (例えば、長期にわたる遅発性の疾病)、そして SOII 疾病見積もりは過少評価になっていることを長い間認識していた。2000 年代の中間にいくつかの研究が SOII の負傷及び疾病の統計の完全性に疑問を投げかけたことに対応して、労働統計局は、2007 年に内部的に調査を始めて、そして議会からの要求で、現在進行中の研究計画を立ち上げた。

2009年から 2012年までの間に実施した最初の研究は、SOII がいくつかのケースを捉えることに失敗し、統計にカウントされなかった数の大きさ及びその主要な原因を判定することができなかった。研究者達は、負傷及び疾病のデータを異なるデータソースと比較する能力は、事業所のタイプ、報告される時間、負傷のタイプのような様々な因子によって影響を受けると結論づけた。

BLS initiated additional research from 2012 to 2014 that included interviews with employers in four states to learn more about their injury and illness recordkeeping practices. Following the four state study, BLS conducted a nationwide follow-back survey with SOII respondents in 2015 and 2016. Analysis of the results of this study will help BLS learn more about recordkeeping practices and timing issues that may negatively affect employer injury and illness reporting to the SOII. BLS also continues to conduct exploratory research on the collection of occupational injury and illness data directly from employees and will pilot test collection of these data beginning in 2017. For more information on undercount research, please see www.bls.gov/iif/undercount.htm

労働統計局は、2012 年から 2014 年までの間に、4つの州で、使用者とのインタビューを含め、使用者の負傷及び疾病の記録の保存の実践状況をより知るための追加的な研究を開始した。この 4 つの州の調査に続いて、労働統計局は、2015 年及び 2016 年に、SOII (傷害及び(職業性)疾病の調査)の回答者とともに全国的な追跡調査を実施した。

この研究の結果の解析は、労働統計局が SOII (傷害及び(職業性)疾病の調査)に対する使用者の傷害及び疾病の報告に否定的な影響を与えるかも知れない記録保存の実践及び時間的問題に関してより学ぶことを助けた。労働統計局は、さらに被雇用者から直接に職業上の傷害及び疾病を収集することに関する開発的な研究を続けており、そしてこれらのデータのパイロット的な収集を 2017 年に開始するであろう。過少評価に関するさらなる情報は、ウェブサイト www.bls.gov/iif/undercount.htm.をみられたい。

(訳者注:この発表に収載された関連する表にアクセスできるウェブ サイトは、次のとおりである。)

(訳者注:左欄のとおり。なお、左欄に掲げられて輪部サイトの日本語仮訳をこの欄に掲げておく。また、これらの表については、別に資料として添付してある。

Table 1. Number, median days away from work, and

表 1. 作業からの休業を含む非致死的な職業上の傷害及び疾病についての、経営主体者別、産業別、筋骨格系の傷害別並びに出来事及びばく露別の件数、休業日数の中央値及び発生率、2015

incidence rate for nonfatal occupational injuries and illnesses involving days away from work by ownership, industry, musculoskeletal disorders, and event or exposure, 2015

http://www.bls.gov/news.release/osh2.t01.htm

Table 2. Number, median days away from work, and incidence rate for nonfatal occupational injuries and illnesses involving days away from work by ownership, industry, and nature of injury, 2015

http://www.bls.gov/news.release/osh2.t02.htm

Table 3. Number, incidence rate, and median days

away from work for nonfatal occupational injuries and

illnesses involving days away from work by selected

● 表 2. 数、作業からの休業を含む非致死的な職業上の傷害及び疾病についての、経営主体者別、産業別及び傷害の性質別の件数、休業日数の中央値及び発生率、2015

● 表 3. 作業からの休業を含む非致死的な職業上の傷害及び疾病についての、選択された労働者の職業別及び経営主体者別の、件数、発生率及び休業日数の中央値、2015

worker occupation and ownership, 2015

http://www.bls.gov/news.release/osh2.t03.htm

Table 4. Number, incidence rate, and median days

away from work for nonfatal occupational injuries and

illnesses involving days away from work by injury or

illness characteristics and ownership, 2015

http://www.bls.gov/news.release/osh2.t04.htm

Table 5. Number, incidence rate, and median days

away from work for nonfatal occupational injuries and

illnesses involving days away from work by gender, age

groups, length of service, race or ethnic origin, by

ownership, 2015

http://www.bls.gov/news.release/osh2.t05.htm

● 表 4. 作業からの休業を含む非致死的な職業性傷害及び疾病についての、傷害又は疾病の性質別、経営主体別の、件数、発生率及び休業日数の中央値、2015

表 5. 作業からの休業を含む非致死的な職業性傷害及び疾病についての、性別、年齢階層別、従事年数別、起源となる人種又は民族別、経営主体別の、件数、発生率及び作業からの休業日数の中央値、2015

● 表 6. 作業からの休業を含む非致死的な職業性傷害及び疾病について

Table 6. Incidence rates for nonfatal occupational

injuries and illnesses involving days away from work per

10,000 full-time workers by injury or illness

characteristics, gender, and age groups, all ownerships,

の、傷害又は疾病の性質別の、フルタイム労働者 10,000 人当たりの発 生率、2015

http://www.bls.gov/news.release/osh2.t06.htm

- Table 7. Incidence rates for nonfatal occupational

 injuries and illnesses involving days away from work per

 10,000 full-time workers by selected worker occupation

 and nature of injury or illness, all ownerships, 2015

 http://www.bls.gov/news.release/osh2.t07.htm
 - Table 8. Incidence rates for nonfatal occupational injuries and illnesses involving days away from work per

● 表 7. 作業からの休業を含む非致死的な職業性傷害及び疾病についての、選択された労働者の職業別、傷害又は疾病の性質別、すべての経営主体別の、フルタイム労働者 10,000 人当たりの発生率、2015

● 表 8. 作業からの休業を含む非致死的な職業性傷害及び疾病についての、選択された労働者の職業別、出来事又はばく露別、すべての経営主体別の、フルタイム労働者 10,000 人当たりの発生率、2015

10,000 full-time workers by selected worker occupation
and events or exposures, all ownerships, 2015

http://www.bls.gov/news.release/osh2.t08.htm

Table 9. Number, incidence rate, and median days

away from work for nonfatal occupational injuries and

illnesses involving days away from work and

musculoskeletal disorders by selected worker occupation

and ownership, 2015

● 表 9. 作業からの休業を含む非致死的な職業性傷害及び疾病及び筋骨格 系傷害についての、選択された労働者の職業別、経営主体者別の、件 数、発生率及び作業からの休業日数の中央値、2015

http://www.bls.gov/news.release/osh2.t09.htm

• HTML version of the entire news release

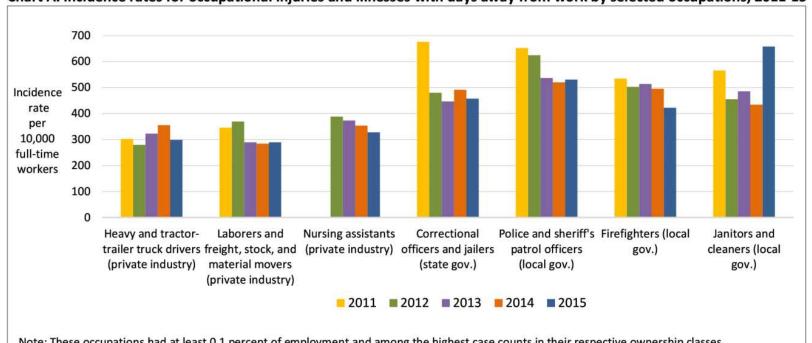
http://www.bls.gov/news.release/osh2.htm

● 今回の発表の全体の HTML 版の (公表資料)

(訳者注: 図A、B、C及びDを次に収載しておいた。)

図 A 作業からの休業を伴う非致死の職業性傷害及び疾病についての、選択された職業別の発生率、2011-15

Chart A. Incidence rates for occupational injuries and illnesses with days away from work by selected occupations, 2011-15



Note: These occupations had at least 0.1 percent of employment and among the highest case counts in their respective ownership classes.

Source: U.S. Bureau of Labor Statistics

図B 民間産業における作業から休業する筋骨格系傷害についての、発生率及び休業日数の中央値、2013-15

Chart B. Incidence rates and median days away from work for musculoskeletal disorders, private industry, 2013-15 Total Heavy and tractor-trailer truck drivers Laborers and freight, stock, and material movers 2013 ■ 2014 **Nursing assistants** ■ 2015 15 20 30 250 10 25 35 200 150 100 50 Incidence rates per 10,000 Median days

full-time workers

Source: U.S. Bureau of Labor Statistics

away from work

図 C 休業を伴う職業性傷害及び疾病についての選択された詳細な出来事又はばく露別の発生率、すべての経営主体、2011-15

Chart C. Incidence rates for occupational injuries and illnesses with days away from work by selected detailed events or exposures, all ownerships, 2011-15

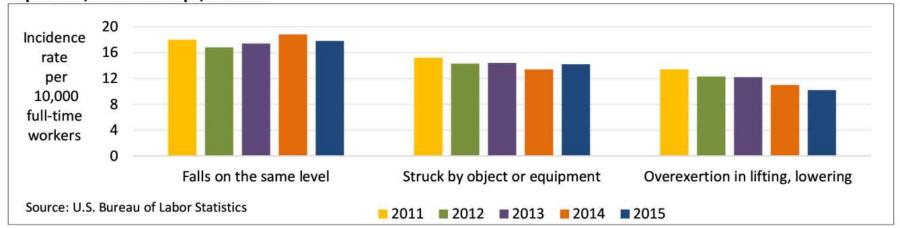


図 D 作業からの休業を伴う職業上の傷害及び疾病の、選択された傷害又は疾病の性質別の分布の割合(%)、すべての経営主体者、 2015

Chart D. Percent distribution for occupational injuries and illnesses with days away from work by selected nature of injury or illness, all ownerships, 2015

